

## JAグループがめざす姿

1. 持続可能な農業の実現
2. 豊かでくらしやすい地域社会の実現
3. 協同組合としての役割発揮

消費者の信頼にこたえ、安全で安心な国産農畜産物を持続的・安定的に供給できる地域農業を支え、農業者の所得増大を支える姿  
 総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かでくらしやすい地域社会の実現に貢献している姿  
 次世代とともに、「食と農を基盤として地域に根ざした協同組合」として、存立している姿

JAは「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の実現と「地域活性化」への貢献を進めるため、創造的自己改革に取り組んでいます。今回は平成30年度の実績を中心に紹介します。

## 地域の活性化

### ■支店



▲盆おどり一体となった平田のJAまつり

### JAまつり 各地区10会場で開催

JAは支店を中心とした「地域活性化」の取り組みを継続しています。JAまつりが8月から11月にかけて、各地区10会場で開催され、多くの方が「食」と「農」にふれあい、交流を深めました。

### ■青年部



▲藤岡小学校での田植え

### 田植え・稲刈り指導

青年部員が各小学校で田植えと稲刈りの指導を行いました。

田植え 11小学校 児童487人  
 稲刈り 9小学校 児童392人

### 首都圏小学校で出前授業

首都圏で食農教育の出前授業を行う「上京運動」を行いました。

上京 28小学校  
 運動 児童約2,000人

### ■女性部



▲親子での料理は貴重な時間です

### 親子料理教室

食農教育の一環で、多くの親子から参加してもらいました。

5会場 171人の親子

### 女性大学

受講生が「食・農・健康」をテーマに講座を受講し楽しく学びました。

講座 7回 受講生33人

### ■未来を考える会



▲刈屋梨で皆んな笑顔!

### メロンと刈屋梨を 学校給食に

特産品である庄内砂丘メロン・刈屋梨を学校給食に供給し、食農教育と地産地消のさらなる推進を行いました。

メロン 小・中学校 7校へ  
 刈屋梨 小学校 8校へ

### ■生産コスト低減

#### 農業機械格納整備事業 利用32%増

30年度は29年度比32%増の110台を預かりました。農機を個人宅で保管できない場合、JAの格納庫を利用することができます。JAは効率的な作業を支援しています。



### ■農地所有適格法人・担い手支援 先進経営事例を初視察

JA庄内みどり農業生産組織連絡会議（会員数45法人）は、平成30年11月に現地視察研修会を初めて開きました。先進経営体による水稲と園芸の複合経営を視察し、法人経営の発展や地域営農の生産振興を図ることが目的です。



▲ミニトマトの養液栽培を視察

### ■安定収量確保・省力化に向け ドローンや密苗などの実証試験



▲ドローン防除の実演会 ▲密苗の実証は田植え

### ■マーケットインに基づく生産・販売

米の実需者ニーズに応え、主食用米はオール山形の一員として、山形県農業再生協議会で決定した「生産の目安」に基づき、需要に応じた米の生産を行います。加工用米や水田活用米穀にも積極的に取り組み、農業者の所得向上を目指し、農家経営の安定に努めます。

## 農業者の所得増大、農業生産の拡大

### ■園芸生産拡大事業 園芸生産拡大支援事業 2年で園芸ハウス61棟



	件数	面積(a)	棟数
29年度	15	93	32
30年度	19	71	29
合計	34	164	61

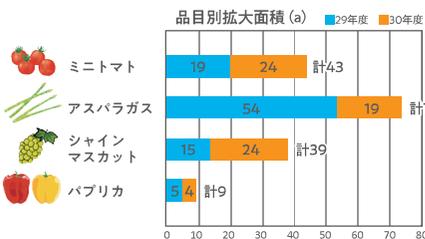


### 長ねぎ生産拡大推進事業 面積1,390aへ

「長ねぎ生産拡大推進事業」とは、長ねぎの苗作り、定植、土寄せ、防除、収穫作業をJAに委託できる事業です。31年度は38人が取り組み、272万本（5kgケースで64,000ケース）320トンの出荷を目指します。10a当たりの目標収量は2万本です。30年度は、253万本で約6万ケース、297トンの実績です。



▲ねぎの共選施設にて調製作業

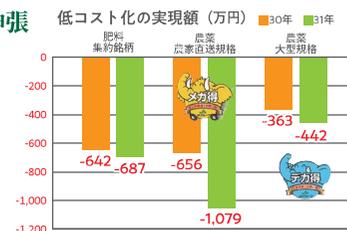


### ■生産コスト低減 大容量規格や銘柄集約で 2,200万円削減、農家直送規格が伸張



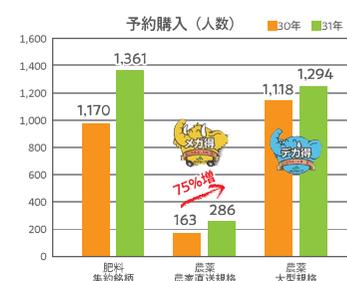
▲農家直送規格を生産者に直送

31年は大容量規格や肥料銘柄集約の提案と予約購入により、30年比32%増の2,200万円のコストを削減できました。農家直送規格は1ha当たり6,837円の低コスト化を実現し、予約購入人数が30年比75%増加しました。



31年	肥料	予約購入				低コスト化の実現		
		人数	トン	数量	面積 (ha)	金額合計	1袋 当たり	1ha 当たり
農業	集約銘柄	1,361	932	46,595	-	-6,876.71	-148	-
	農家直送規格	286	13	447	1,579	-10,794.900	-	-6,837
	大型規格	1,294	50	5,244	3,853	-4,428.860	-	-1,150
合計		2,941	995	-	-	-22,100.470	-	-

※農家直送・大型規格は1kg剤を購入した場合との比較



# JAが地域社会に果たす機能・役割

JAは、皆さまの営農やくらしのあらゆる面に役立てていただけるよう、以下のような事業を行っています。



aimi  
aimiちゃん  
©よい食P

## 農業関連事業



営農指導、農畜産物販売、生産資材購買

**販売事業取扱実績 141億円**

(米穀106億円、園芸19億円、畜産15億円)

**購買事業取扱実績 59億円**

## ファーマーズマーケット 農産物直売所



みどりの里  
山居館

JA直営店1店舗 (出荷組員90人)

**インショップ型産直4ヶ所**  
(出荷組員延べ60人)

JA直営の山居館では組員90人が生産した新鮮野菜を、地域の皆さんから購入してもらっています。年間で約10万人の方から利用いただいている産直施設です。また、組員は組織をつくり、庄内のスーパーなど4店舗にインショップ型の産直として入り、多くの方から利用いただいています。

## 共済事業



生命共済、建物共済、自動車共済など  
農業やくらしに関する共済

**共済窓口 9支店**

地域に根ざしたライフアドバイザー(LA)が利用者のライフプランをサポートします。共済事業以外の相談もJAの各担当者へおつなぎして、役立つ情報を提供しています。



庄内地区5JAとJA共済連山形は、県立庄内農業高校に実習用大型トラクターを寄贈しました。JAグループ山形の地域貢献活動の一環です。

## 総合事業

### 信用事業



貯金、農業融資、住宅ローンなど  
農業やくらしに関する金融

**金融窓口 9支店 ATM23台**

地域の皆さまから貯金をお預かりしたり、農業機械や住宅、マイカー、教育ローンなどで暮らしを支える地域の身近な金融機関として、きめ細かいサービスを提供しています。

### 生活関連事業



八幡給油所  
リニューアル  
オープン

ガソリンスタンド、ガス、  
高齢者福祉事業、葬祭など

**JA-SS 5ヶ所**  
ガス事業利用者 約9,600人

JA健康寿命100歳プロジェクトの一環として、「ウオーキング倶楽部」を実施しています。

**7回実施 延べ246人参加**

## 組合員アンケートにご協力をお願いします

この度、JAグループとして組合員の皆さまを対象としたアンケート調査を実施させていただくこととなりました。日頃、農協事業を利用いただいている組合員の皆さまの、農協に対する率直な意見を伺いたいと考えております。調査結果はJAグループと政府の農協改革に関する議論・交渉の材料として使用させていただきます。お忙しいところ大変恐縮ですが、何卒ご協力をよろしくお願い致します。

**調査期間**

平成31年2月12日(火)~3月12日(火)に、当JA職員が訪問し、アンケートのお願いをさせていただきます。

**お問合わせ**

総合企画部  
総務課 ☎0234-26-5500



# 組合員アンケート調査へのご協力をお願い

立春の候、組合員の皆様におかれましてはますますのご発展のこととお慶び申し上げます。日頃より農協事業につきましては特段のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、JAグループとして組合員の皆様を対象としたアンケート調査を実施させていただくこととなりました。日頃、農協事業を利用させていただいている組合員の皆様の、農協に対する率直な意見を伺いたいと考えております。調査結果はJAグループと政府の農協改革に関する議論・交渉の材料として使用させていただきます。お忙しいところ大変恐縮ですが、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

## 【調査期間】

平成31年2月12日(火)～3月12日(火)に、当JA職員が訪問させていただき、アンケートのお願いをさせていただきます。

ご不在連絡

回収日 月 日 ( 時 分頃)

にお伺いいたしますので、何卒よろしくお願いいたします。

担当者 \_\_\_\_\_ 連絡先 \_\_\_\_\_

## 【お問い合わせ先】

庄内みどり農業協同組合 総合企画部 総務課 ☎0234-26-5500

# 自己改革の取り組み ～農家組合員の所得増大・農業生産拡大のために～

## ① 農業所得の増大

### ●園芸生産拡大支援事業

ミニトマト、アスパラガス、シャインマスカット、パプリカの4品目を対象に、園芸用ハウスなど設備投資にかかる費用の一部をJAが支援します。平成33年度までの5カ年事業です。

### ●長ねぎ生産拡大推進事業

長ねぎの苗作りや定植、防除、掘り取りなどの作業をJAへ委託することが出来ます。共選施設の拡充を図りながら、平成30年度では、全体で作付面積30haを目指します。

## ② 営農生産法人・担い手支援

### ●組織運営に対する支援対策

集落営農組織から法人化した組織や移行を考えている組織に対し、創立後の法人経理や事務作業、事業展開にかかる不安や負担を軽減するため、「生産法人等組織支援対策」を実施しています。これまで45組織が設立されました。

### ●農業後継者・新規就農者支援

将来、地域農業の担い手となる農業後継者や新規就農者の育成及び支援を通じ、地域農業を支え、農業生産の拡大に努めます。



## ③ 低コストによる生産

### ●肥料の大型規格化や銘柄集約化によるコスト削減

肥料の大型規格による予約購買や銘柄集約による製造コスト削減を行うことで価格を引下げ、生産コストの低減を図ります。

### ●農業機械格納整備事業

管内4つの格納倉庫を集約し、八幡地区の工場跡地に移設しました。移設で倉庫面積は約730㎡から約1600㎡に拡大し、コンバイン・田植え機約100台分が格納可能になりました。個人宅で保管できない法人の農機を預かり、効率的な作業を支援していきます。

## ④ マーケットインに基づく生産・販売

### ●米の需要に応じた生産・販売

主食用米は「生産の目安」を遵守することで、米価の維持に努め、加工用米等、水田活用米穀にも積極的に取り組みながら、所得向上を目指し、農家経営の安定に努めます。

### ●米の需要に応じた品種構成

主力の「はえぬき」に加え、高値安定の「つや姫」、新たな県品種「雪若丸」、実需先と連携した品種の取組みなど、需要に応じた品種構成による生産・販売を展開します。



平成31年2月7日(木)

農家手取り最大化成果発表会資料

# 『再生産できる農業、未来へ続く農業』の実現に向けて

JA庄内みどり経済部 佐藤弘毅



JA庄内みどりが位置する、山形県庄内地方北部は、管内北側では鳥海山の雪解け水が日向川と月光川となって日本海へ注ぎ、南側では山形県の母なる最上川が洋々と流れ、日本海へつながっています。これらを取水源とし、大規模な灌漑水路と基盤整備された「庄内平野」が美しく広がっています。

## 目 次

1. JA庄内みどりの概要
2. JA中期経営計画概要
3. JA自己改革の取組み
4. モデルJA≫トータル生産コスト低減の取組み
5. モデルJA≫生産性向上の取組み
6. モデルJA≫人材育成の取組み
7. モデルJA≫多様なニーズへの対応の取組み
8. モデル経営体≫農事組合法人 ファーム北平田の取組み
9. まとめ①≫これまでの取組み成果
10. まとめ②≫実践を踏まえた課題
11. 今後について①≫農業ICTの取組み
12. 今後について②≫管内組合員への普及、水平展開

# JA庄内みどりの概要

**位置** 山形県庄内地方北部  
**設立** 平成6年4月1日  
(酒田飽海地区の8総合 JAが合併)

**事業区域** 酒田市、遊佐町

**組合員数** 14,334名

**役員数** 理事25名、監事7名

**職員数** 545名

**出資金** 5,509,899千円

**事業取扱実績**

・ 購買事業 5,952,852千円

・ 販売事業 14,103,007千円

**主な農産物** 水稻、青果物（メロン、長ねぎ、柿、パプリカ、和梨、ミニトマト、アスパラガス）、花き、畜産物



## 1. 広域営農振興計画(RICE戦略)

- ・生産性・収益性の安定化
- ・集落営農組織から農業生産法人への展開

## 2. 高収益確保を目指した水田営農体系の確立

- ・生産性向上・省力化技術の確立
- ・水田高度利用の拡大 ・品種構成の適正化

## 3. 農業生産法人等への支援強化・JA作業受託出資法人の設立

- ・担い手経営体支援、地域農業生産体制の再構築

## 4. 需要と供給に応じた販売と、安定販売に向けた集荷率向上

- ・実需の要望に応じた作付誘導
- ・産地での生産計画に基づく実需への提案

## 5. 市場相場に左右されない足腰の強い園芸の推進

- ・産地強化重点品目「長ねぎ」生産拡大事業の推進
- ・産地強化振興品目の生産拡大

## 6. 流通合理化による資材コスト削減

- ・大型規格商品による低コスト化の推進

### 法人組織・集落営農組織への計画的利用率の向上

- ・法人組織・大規模農家・認定農業者への支援

### 営農課と連携した予約購買の推進強化

- ・予約率の向上を図る

## 7. 低コストに向けた情報提供と効率化による利便性の向上

- ・情報提供による訪問活動と低コスト支援
- ・整備体制と格納整備による利便性の向上

## 8. 人材の計画的育成と管理評価の徹底

- ・組合員・利用者満足に応える職場づくり
- ・充実した職員教育による人材育成

## 未来を考える会 設置の背景

農協改革など大きな変革が叫ばれる中、生産JAとして独自性を持ち、地域農業に貢献できるJAとなるため、理事会の諮問機関として設置した。

## 未来を考える会 委員構成

構成員	人数
組合員	13名
JA役員	5名
コーディネーター	3名
合計	21名

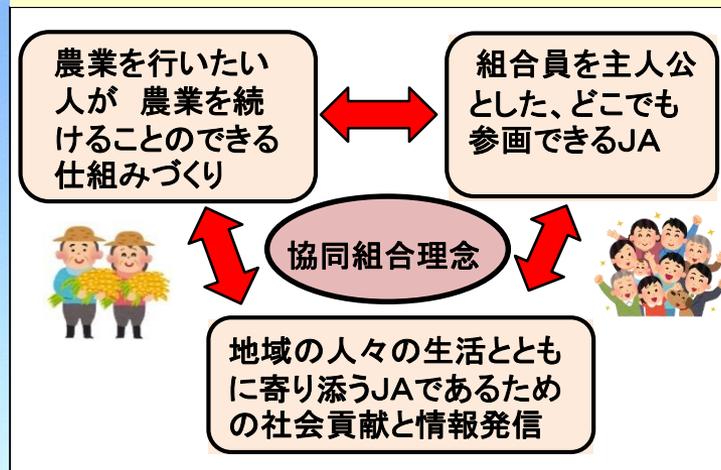
## 主な行動

平成27年9月	理事会の諮問機関として設置
平成28年11月	答申書を理事会に提出
平成29年5月	具体策作成のための4つのプロジェクト会議を発足
平成29年9月	理事会への答申提出

## 未来を考える会プロジェクト会議



## 10年後のJA庄内みどりのあるべき姿



平成28年11月 「JA庄内みどりの未来を考える会」答申書

## 『再生産できる農業、未来へ続く農業』

答申内容に基づき4つのプロジェクトの立ち上げを要請

事業革新(担い手) 事業革新(事業戦略) 組織運営 社会貢献・情報発信

平成29年5月

プロジェクトの立ち上げ【答申内容から優先順位を決め具体策を検討】

平成29年6月～9月

実施具体策としての事業計画書を作成

平成29年9月26日

理事会への答申提出



各部署での実行へ向け協議

平成30年6月

実効性のあるものから中期経営計画に反映

## 大型規格品の取扱拡大

(現状)水稲除草剤は、品目数が膨大で、メーカーの製造・物流コスト増大が価格が高くなる一因となっている。

(課題)これまで大規模生産者等に対応した商品・規格を推進してきたが、さらなる生産コスト低減が求められている。

## 主な行動と実績

(実績)これまでの大型規格品の取扱いに加え、全農からの提案で、更に流通コストを削減した担い手直送規格品を推進。目標(1,000ha)を上回る取扱実績となった。

(実績)ヘリ防除においても、これまで取り扱っていた商品よりも更にコスト削減が出来る大型規格品を取扱い、目標の5,000haを超える取扱いとなった。

## 大型規格品の取扱い



## 担い手直送規格品の配送



実践メニュー	実績・見込	農家メリット	経済効果
担い手直送規格品の取扱い	1,015ha バッチリLX50kg×76箱 コメット粒剤30kg×180箱 コメット顆粒4kg×19箱	6,884円/ha	6,987千円
大型規格品の取扱い (ヘリ防除)	5,400ha スタークル液剤 (大型規格)×27箱	695円/ha	3,753千円

## 集中購買銘柄への集約

(現状と課題)メーカーの営業戦略や農産物の差別化などを背景に、肥料の取扱銘柄数が増加傾向。商系との価格競争も激しくなる中、JAグループとしても更なる生産コスト低減が求められている。

## 主な行動と実績

(行動)平成29年度から営農指導員と連携をはかりながら、集落座談会や各組織との会議等で、集中購買銘柄への結集について提案し、理解を求めて推進した。

(実績)既存17銘柄を、全農指定の集中購買銘柄5銘柄へ集約し取りまとめを実施した。その結果、既存17銘柄のJA取扱い数量に対し、約半分が集中購買銘柄となった。

## 集中購買銘柄の取扱い



## 集中購買銘柄への結集の提案



実践メニュー	実績・見込	経済効果
集中購買銘柄への集約	484 = <u>3,364袋</u>	7,159千円
	500 = <u>2,085袋</u>	
	545 = <u>7,271袋</u>	
	NK化成68 = <u>1,896袋</u>	
	14-14-14 = <u>32,175袋</u>	
合計	計 = <u>46,791袋</u>	

## 高収益確保を目指した水田営農体系の確立

(現状)近年、稲作における省力・低コスト技術が進化している中で、ドローンを活用したリモートセンシングによる可変施肥技術など稲作技術が注目されている。

(課題)主幹作物である水稻の省力低コスト化の普及を図るため、農業ICTなど新技術等を試験的に導入をすすめ、大規模経営体に提案していく必要がある。

## ドローンによる水稻防除の実証圃



## 密苗実証圃の田植え(松山圃場)



## 主な行動と実績(平成30年度実施)

主な試験	試験区	面積	実証内容
ドローンによる 水稻防除	1か所	5ha	(株)ナイルワークスのドローンによる水稻防除の実証
密苗	4か所	240a	農機メーカ協力による密苗の省力・低コスト検証
鉄コーティング 直播栽培	1か所	1ha	全農要領による平成30年度鉄コーティング大規模実証圃
水稻多収取り	3か所	180a	「はえぬき」の増収試験(天候不順により、増収効果は確認できなかった)

## 産地強化重点品目「長ねぎ」の生産拡大

(現状)長ねぎは、高齢化による離農や、高度な栽培技術が必要なこと、収穫・出荷調整作業に多大な労力を要すること、また機械装備などが必要なことから、新規で生産する農家が少なく、生産量が減少傾向である。

## 主な行動と実績

(行動)栽培面積の拡大と新規の生産者を増やすため、苗づくり、定植、病害虫防除、土寄せ、収穫、出荷調整などの主だった作業をJAが受託した。

(実績)このことにより、新規で長ねぎ栽培に取り組む人が増えた。また、既存の生産者もこれまで作付した面積の他に、新規分としての作付拡大に繋がった。

(平成29年 887a ⇒ 平成30年 1,364a)

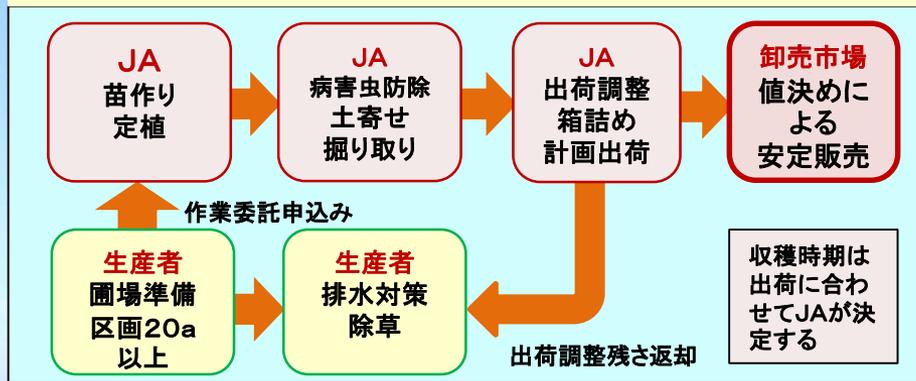
## 長ねぎ作業受託班による掘り取り作業



## 長ねぎ共選施設での調整、箱詰め作業



## 「長ねぎ生産拡大推進事業」の概要



## 園芸産地化振興品目の生産拡大

(課題) 農業の生産拡大と農業所得の向上を図るため、施設園芸を後押しし、園芸品目と水稻栽培との複合経営を推進する必要がある。

## 主な行動と実績(平成29年～平成30年)

(行動) JAが施設を取得し、農業者や農業生産法人に貸し出し、初期投資を抑え施設園芸に取組み、園芸生産拡大をはかった。

(実績) 法人対象の「園芸実証モデルハウス支援事業」および法人、個人対象の「園芸チャレンジハウス支援事業」を活用して、34件の農家がミニトマト、アスパラガス、パプリカ、シャインマスカットの栽培に着手した。

(実績) 「園芸生産拡大事業」により、ミニトマト、アスパラガスの栽培面積の拡大や高品質安定生産につながっている。

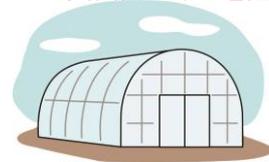
## 「園芸チャレンジハウス支援事業」の概要

対象品目

ミニトマト・アスパラガス・大粒ぶどう「シャインマスカット」・パプリカなどのうち1品目

農業生産法人や個人の農家に貸し出し  
単独でハウスを活用し、対象品目を栽培

JAが園芸用ハウスを建設



チャレンジハウスのポイント



単年度ごとに6件の園芸用ハウスの建設を予定し、5年間で計30件の導入を計画しています。ただし、栽培する品目はその年の申請状況により異なります。

## ういずOne利用によるパプリカ栽培



実績(平成29年～30年)	農家メリット	平成30年実績
29年度 15件 32棟 93.0a	施設の初期投資が抑えられる	ミニトマト
30年度 19件 29棟 71.3a		19a 6,657kg 3,783千円
合計 34件 61棟 164.3a		パプリカ 5a 2,234kg 699千円

## 園芸作物の指導体制強化

(課題)米政策の転換により、今後ますます園芸振興の重要性が高まる。園芸生産拡大をはかるため、栽培指導体制を強化する必要がある。

## 主な行動と実績

(行動)管内園芸作物で主要品目となる、アスパラガス、ミニトマト、パプリカ等において、適切な営農指導と生産振興を推進できる品目ごとの専任指導員を育成する。

(実績)大規模営農法人や「園芸生産拡大事業」によりハウス支援事業に取り組んだ農家に、技術面・経営面からきめ細かなサポートを実施した。

## 主な研修

全農トマトランド(千葉県柏市)での実地研修

平成28年度  
1年間(2名)

全農山形園芸産地拡大実証研修農場で実践研修(ミニトマト、パプリカ)

実践研修  
週1回(1名)

## 技術・経営面の営農指導



## 園芸生産拡大事業へのサポート



## 整備体制と格納整備による利便性の向上

(現状)農地の集約、農業者の法人化により、農業機械の大型化、高価格化が進んでいる。

(課題)農業機械の定期的なメンテナンスにより、長寿命化がはかられ、コスト削減が可能となるため、大規模農家、法人からの大型農機の格納整備のニーズが高まっている。

(課題)これらのニーズに応えるため、JAとして大型機械の格納整備を受ける体制を強化し、効率化により利便性を向上する必要がある。

## 主な行動と実績

(行動)これまで整備依頼を受けた際に格納していた4つの施設を、民間企業より取得した大型の格納施設に集約した。

(実績)集約前(平成27年)50台ほどだった格納台数が、年間整備台数の約4分の1に当たる約100台となった。このことにより、大型機械の格納整備を受ける体制が強化され、周年を通し安定した整備台数の確保ができた。

実践メニュー	実績・見込	農家メリット
農業機械格納整備の促進	平成27年度 50台 ↓ 平成30年度 110台	定期的なメンテナンスによる大型農業機械の『長寿命化』

## 大型の格納施設



## 格納整備受入れ台数推移

(単位:台、%)

品目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
コンバイン	54	61	78
田植機	10	18	27
トラクター	4	4	4
その他	3	3	4
合計	71	83	110



## 【酒田市 山居倉庫】

米どころ庄内のシンボル、山居倉庫は明治26年旧藩主酒井家によって建てられた米保管倉庫です。

米の積出港として賑わった酒田の歴史を今に伝え、NHK朝の連続テレビ小説「おしん」のロケーション舞台にもなりました。

白壁、土蔵づくり12棟からなる倉庫群のうち、9棟は現在も農業倉庫として使用されています。

米の収容能力は10,800トン(18万俵)。夏の高湿防止のために背後に樺並木を配し、内部の湿気防止には二重屋根にするなど、自然を利用した先人の知恵が生かされた低温倉庫です。

(酒田市公式ウェブサイトより)



## ファーム北平田の概要

所在地	酒田市漆曽根字千刈13
設立	平成28年1月4日
組合員数	104名
役員数	12名(理事10名、監事2名)
出資金	9,300,000円
経営面積	450ha
作付状況	水稲 331ha、飼料米 44ha、 大豆 57ha、 長ねぎ 1.5ha、枝豆 2.0ha、
施設園芸	ハウストマト(4棟) 3,240㎡ ストック(2棟) 1,134㎡
主な 所有農機	コンバイン 20台、トラクター 5台、 田植機 3台、大豆コンバイン 4台、 直播機 3台、無人ヘリ 2台
10a当たり 平均収量 (平成29年度)	はえぬき 591kg、つや姫 497kg 飼料用米 710kg、大豆 204kg 長ねぎ 2,596kg、トマト 4,722kg

## フルーツマト「フルティカ」栽培 若者の人材育成にも積極的に取り組んでいる



## 共同作業による農業施設や農業機械の有効利用

(現状)集落組織で育苗作業、田植え、収穫作業等を個人ごとに行っていた。

(経過)法人組織の強みを生かし、水稻の作業を共同で取組んで農業施設や農業機械の有効利用を図る。平成30年度は、収穫作業を共同で取り組んだ。

## 主な行動と実績

(実績)平成30年にコンバイン20台を17班で稼働させ、収穫作業の共同化を実施した。このことによって収穫作業の負担削減と適期刈取りにつながった。今後も継続して実施するとともに、効率的な作業の検討を行なう。

(行動)共同育苗のために、育苗ハウス2棟を新たに設置した。平成31年度から、20,000枚の共同育苗を計画。(後作はストック栽培で施設の有効利用をはかる。)

(実績)今年度1.6ha(400枚)の共同育苗を試験的に実施した。

(行動)田植えの共同化も進めており、平成31年度は、新たに田植機を1~2台導入し、水稻の移植作業も共同で取組んでいく。

## 20台のコンバインを17班で稼働



実践メニュー	行動	実施時期
水稻育苗作業の共同化	共同育苗ハウスの設置	平成31年度から本格実施
水稻移植作業の共同化	新たな田植機の導入	平成31年度から試験実施
水稻刈取作業の共同化	共同化の実施	平成30年度から実施

## 密苗導入による資材コスト削減・労働力低減・作業分散化の検証

(目的)ファーム北平田の主品目である稲作のコスト低減・労働力低減・作業分散化をはかるうえで、密苗移植技術の導入を検証する。

## 主な行動

(行動)農機メーカー(ヤンマー)と連携し、JA・組合員への技術紹介を行うとともに、モデル圃場(60a・3か所)を設置し、検証を行なった。

(行動)コスト削減・労働力低減効果が確認できたため、平成31年度に導入する田植機は、密苗対応機種とした。

(北平田)	慣行移植	密苗移植	効果
育苗日数	25日	20日	▲5日
田植時間	16.8分/10a	13.2分/10a	▲3.6分/10a
苗つぎ回数	2.7回/10a	0.7回/10a	▲2回/10a
育苗箱数	25枚/10a	11.7枚/10a	▲13.3枚/10a

## 密苗モデル圃場の田植え



## 箱処理剤の田植同時施薬も実施



## 高収益作物を取り入れた 園芸事業拡大にシフトしていく複合経営

(目的)安定経営を目指し、稲作や大豆を中心とした土地利用型農業から、高収益園芸作物を取り入れた複合経営への移行を目指す。

## 主な行動と実績

(実績)ういずOne利用によるミニトマト「アンジェレ」(3棟)、アイメック農法による高糖度フルーツマト「フルティカ」(1棟)を導入した。

(実績)新たに設置した、共同育苗ハウスを有効利用するためストック(2棟)を導入した。

(実績)若手後継者の栽培管理による、後継者の育成

(実績)周年雇用のため秋冬季雇用の創出。

## ういずOne利用による「アンジェレ」栽培



## 共同育苗ハウス利用によるストック栽培



実践メニュー	実績 (平成30年度)	販売高
アンジェレ・フルティカの導入	14,600kg	10,245千円
育苗ハウス利用ストックの導入	10,000本	600千円
合計	-	10,845千円

## まとめ①≫ 農家手取り最大化 これまでの取組み成果

1. 既存の取扱い肥料17銘柄のJA取扱い数量に対し、約半分が集中購買銘柄5銘柄となり、低コスト資材の水平展開を図る事が出来た。
2. 大型規格農薬の「担い手直送規格品」は、1,000haを上回る取扱実績となった。
3. 農業機械格納整備事業は、農機の格納整備受入れ台数が、倉庫取得前の平成27年度の約2倍に増加し、大型化による農機台数が減少する中、安定した整備台数の確保ができた。
4. 「園芸生産拡大事業」では、対象品目（ミニトマト、アスパラガス、パプリカ、シャインマスカットなど）の作付面積が順調に拡大し、複合経営化が進み、農家の手取り向上につながりつつある。
5. 「長ねぎ生産拡大事業」により、日々安定した数量を市場へ出荷することが可能となり、値決販売によって販売安定価格の実現につながっている。

## まとめ②≫ 農家手取り最大化 実践を踏まえた課題

1. 肥料の集中銘柄への集約、農薬の大型規格品の取扱いなど低コスト資材の提案によりJAの供給は減少傾向であるため、農業法人や未利用農家への働きかけが必要である。
2. 水田の受委託増加などによる規模拡大を見据え、作業の省力化、分散化をはかるため、乾田直播や湛水直播栽培、密苗栽培などを組み合わせた作型の検討と普及が必要である。
3. 施設・物流にかかるコスト低減や合理化も、今後の課題として検討していく必要がある。
4. 「園芸生産拡大事業」によって、対象品目のミニトマト、アスパラガスは着実に面積拡大しているが、今後もさらなる施設園芸の拡大をすすめる必要がある。
5. 土地利用型作物の面積拡大と団地化推進、および作業機械の導入を促進し、生産性を向上していく必要がある。

1. 生産現場では、「規模拡大にともなう生育のバラつき」「ベテラン農家の離農による栽培技術の継承が途切れる」「地球温暖化に伴なう気象災害の多発」などが懸念されている。
2. これらの対応として、ICT、IOTの活用によるスマート農業の導入による大規模経営の安定化が、次世代農業を担う後継者育成にも結びついていくものと期待している。
3. 現場での課題を組合員と一緒に抽出し、ICT技術導入におけるメリット、デメリット等の検討を行なう。あわせて、試験的に導入をすすめ、大規模経営体に提案を行なっていきたい。

1. 密苗・密播栽培などの省力・低コスト新技術の普及。
2. 農業用ドローンなど、スマート農業の実証試験と普及検討。
3. 園芸を中心とした複合型農業経営の推進と安定した経営基盤の構築。
4. 営農指導員のスキルアップによる組合員への対応力強化。
5. 低コスト資材(集中購買銘柄、大型規格農薬など)の研修会、座談会等でのさらなる周知と普及。

**これからも、組合員とともに所得増大・生産拡大  
(農家手取り最大化)をすすめていければと思います。**

ご清聴ありがとうございました。

お米つて、食感なんだ。

ひと粒ひと粒が、  
口の中で主張するんです。  
噛みごたえつていうか、  
米ごたえがスゴイ。  
「雪若丸」気に入りました。



雪若丸イメージ  
キャラクター  
田中 圭

粒立ちしっかり新食感!

雪若丸

「つや姫」の山形から、あなたの食卓へ。

JAグループ山形/山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部 山形県農林水産部県産米ブランド推進課内 TEL.023-630-2476 <http://www.tuyahime.jp>

世界に誇るお米、つや姫。



ブロードキャスター  
ピーター・バラカン

やまがた特命観音・つや姫大使  
作家 阿川佐和子

料理「雪乃丸」  
主人 村田吉弘

山形「つや姫」

フランス・シャンパーニュ地方の葡萄のように  
栽培地を限定

有機栽培米と特別栽培米に限定  
お米づくりの  
匠たちが生産

お米はここまで美味しくなれる。



山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部(山形県) JAグループ山形(山形県)農林水産部県産米ブランド推進課(山形県) TEL.023-630-2476 <http://www.tuyahime.jp/> つや姫

